

第二次佐久市自殺対策総合計画(素案)に対する 意見募集の実施結果

1 意見募集の概要

(1) 意見募集期間

令和4年12月21日(水曜)から令和5年1月10日(火曜)まで

(2) 素案の公表方法

ア 佐久市ホームページ

イ 佐久市役所市民ホール行政閲覧コーナー、健康づくり推進課窓口、
各支所健康づくり推進係窓口に閲覧用として設置

(3) 意見の募集方法

ア 郵便

イ 持参

ウ 電子メール

エ ファクシミリ

2 意見募集の結果

(1) 提出された意見 1名(3件)

(2) 提出された意見の概要とそれに対する市の考え方 別紙のとおり

「第二次佐久市自殺対策総合計画（素案）」に対して提出された意見の概要とそれに対する市の考え方

No.	主なご意見等（要旨）	対応方針
1	<p>佐久市としてスクールソーシャルワーカーを配置する事は考えていないのか。時代とともに子どもたちの悩みも複雑化していると思われるが、専門的な知識や技術を持つスクールソーシャルワーカーを配置することによって、より子どもたちに寄り添った対応ができるのではないか。</p>	<p>これまで県の教育事務所配置のスクールソーシャルワーカーと連携を取り、学校だけでは解決困難な悩みを抱える児童生徒の支援を行ってまいりましたが、これに加え今年度、県派遣スクールソーシャルワーカーを市内の学校へ配置し、より迅速かつ寄り添った支援に務めております。</p>
2	<p>子どもたちが信頼できる大人に SOS を出せるような教育をしていく、とあるが、そもそも「信用できる大人が見つからない」、「信頼できない」といった子どもたちもいるように思う。そういった場合、別の対応を考慮したり、子供たちとの信頼関係を築いたりすることが先ではないか。</p>	<p>子どもたちに「SOS の出し方の教育」を行ってだけでなく、保護者や教職員向けのゲートキーパー養成研修会を通して、大人が身近な子どもの SOS を察知して、声をかけ、受け止め、適切な支援へつなげるための知識・理解を深めるための普及に努めます。</p> <p>また、周囲の人との信頼関係の構築には、乳幼児期における親や養護者との最初の愛着形成が土台となっていることを念頭に、子育て中の親子に対する支援を行ってまいります。</p>
3	<p>相談場所について、悩みに沿った多様な相談窓口が増えることはとてもいいことだと思う。しかし、悩みが多分野にわたっていたり、漠然としていたりすることで相談に至れない方もいると思う。</p> <p>そういった場合は、それぞれの相談窓口に行くというより、まず悩みがある人が気軽に立ち寄れて、ただそこにいるだけでもいいし、話も聞いてもらえるもっとオープンな場所があると相談へのハードルが下がると思う。</p>	<p>市民やその世帯が抱える課題が複合化・複雑化する傾向がある中、分野別に切り分けられた相談では対応が難しい事例が増えてきています。これに対応し、様々な悩みを抱える方がどの窓口でも気軽に相談できる体制が整えられるよう、自殺対策総合計画の上位計画に当たり、地域福祉に係る理念や考え方を計画する「佐久市地域福祉計画」において、「重層的支援体制の構築」を目指すこととし、その中で、断らない包括的な相談支援の実現に向けた取組を進めていくこととしています。</p> <p>また、地域における交流の場や居場所づくりについても、重層的支援体制を構成する1つの重要な取組と位置付けています。</p> <p>これらにより、悩みを抱える方が支援を受けやすい環境を整えてまいります。</p>